

# 令和4年度（令和5年度実施）事務事業評価表

事業整理番号 0102 - 01

事務事業名	国際アート・カルチャー都市推進事業	担当組織	政策経営部	SDGs未来都市推進課
-------	-------------------	------	-------	-------------

事業特性											
事業を構成する予算事業	事業開始年度	30年度以前	事業終了年度		計画／一般	計画	計画事業No.	8-	1-	1-	1
	単独／補助	区単独事業	運営形態	一部業務委託	関連するSDGsのゴール		11	8	9	17	
① 国際アート・カルチャー都市推進事業経費					②						

政策体系（令和4年度基本計画）										
地域づくりの方向	伝統・文化と新たな息吹きが融合する魅力を世界に向けて発信するまち			政策	アート・カルチャーによるまちづくりの推進					
施策				政策番号						
関連する個別計画				計画策定年度			計画期間			

## 1. 事業の概要・指標の達成状況

(1)実施の対象（具体的に記載）	区民等									
(2)事業の目的・期待する効果	国際アート・カルチャー都市構想実現並びにSDGs未来都市推進の担い手である「特命大使」の活動を支援しつつ、大使自らが企画・運営する事業の実施を促し、豊島区独自の持続発展可能な「国際アート・カルチャー都市」実現につなげていく。									
(3)事業概要	都市構想実現を牽引してきた「国際アート・カルチャー特命大使」は「SDGs特命大使」も兼任する新たな制度を創設した。SDGsの理念も取り込んだ豊島区独自の持続発展可能な「国際アート・カルチャー都市」の実現に向け、その活動の担い手となる特命大使の事業を支援していく。									
(4)目標の達成状況	4年度の取組内容（4年度に実施した具体的な業務内容）	令和4年度は区制施行90周年企業実行委員会の運営を通じ、国際アート・カルチャー都市のプロモーションを主たる事業として実施した。 ・90周年第1回実行委員会にて豊島区制90周年記念動画を上映。その後動画を再構成し、より区民全体に訴求できる動画を制作した。 ・90周年企業実行委員会を通じ、企業間連携、企業実行委員会の取組をより広くプロモーションするため、「としまMONOづくりメッセ」に出展した。 ・90周年事業の一環として、D-8、「街中まるごとデザインミュージアム池袋」を開催した。また、国際的アートイベント「ArtFairTokyo」と連動し、豊島区をサテライト会場として「Future Art Tokyo, TOSHIMA」を実施した。								
	成果指標（事業目標の達成度）	成果指標	目指す方向性	単位	3年度（実績）	4年度（計画）	4年度（実績）	（達成率）	5年度（計画値）	
	①	区民の文化芸術活動に接する機会	→	%	31.4	40.0	31.3	78.3%	40.0	
	②									
③										
指標の説明	①「協働のまちづくりに関する区民意識調査」設問「文化芸術に触れる機会が多くなった」、「どちらかというと思う」の割合（特命大使による文化事業への参画とまちの魅力発信の成果指標として採用）									
未達成の状況	未達成	未達成または一部未達成の理由	90周年事業と連動して各種イベントや展示会出展等によりプロモーションを図ったが、指標として採用している「区民意識調査」の結果に現れるのは次年度以降であると考えられるため。							
(5)取組実績	活動指標（事業の実施状況）	活動指標	目指す方向性	単位	3年度（実績）	4年度（計画）	4年度（実績）	（達成率）	5年度（計画値）	
	①	豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使幹事会の開催	→	回	2	2	2	100.0%	2	
	②	豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使自主企画事業	→	回	23	35	35	100.0%	35	
	③									
指標の説明	①豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使幹事会の開催回数 ②豊島区国際アート・カルチャー特命大使/SDGs特命大使自主企画事業の数									
未達成の状況	達成	未達成または一部未達成の理由								

## 2. 事業費の推移

単位 （金額の項目：千円 人数の項目：人）	3年度		4年度			5年度		
	予算	決算	予算	決算	執行率	予算	増減（R4決算比）	
事業費	A	9,000	4,761	14,473	12,648	87.4%	8,253	-4,395
人件費	【正規（人数）】	—	(2.00)	—	(2.00)		(2.00)	—
	【会計年度任用職員等（人数）】	—	(0.00)	—	(0.00)		(0.00)	—
	人件費 B	B	—	17,000	—	17,000		17,000
事業費（人件費含む）	C=A+B	—	21,761	—	29,648		25,253	-4,395
財源内訳	国、都支出金		0	0	0		0	0
	使用料・手数料	D	0	0	0		0	0
	地方債・その他		0	0	0		0	0
	一般財源	E=C-D	—	21,761	—	29,648		25,253

### 3. 総合評価及びR5年度以降に向けての対応・改善策

(1)令和4年度成果と課題	<b>【指標の達成状況(a)】</b> →S、A、B、C、Dの5段階で評価	<b>B</b>	根拠	一部未達成事項はあったものの、前年と同水準であり、概ね計画どおりに実行できたため。	
	※上記の達成状況を踏まえ、評価及びその根拠を記載してください。 ※以下の欄には、①目標に対する成果結果の課題、②指標以外の数値では測れない効果について記載してください。				
①目標に対する成果状況を踏まえた課題					
アート・カルチャー都市事業は整理する。 そのうえで、企業連携プラットフォームやシティプロモーションなど、改めて予算措置する必要がある。					
②指標に表れない事業の成果(指標以外の成果)					
(2)業務(事務)改善にむけての取組み	<b>【業務(事務)改善に向けての取組み(b)】</b> S、A、B、Cの4段階で評価 →	<b>C</b>	根拠	関連部署との連携が不足しており、今後は密に行っていく必要があるため。	
	※下の確認事項の内容を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※昨年度に何らかの対応、改善を行い、事業を大きく前進させる成果があった場合のみ「S」評価としてください。				
	①目標に対する成果状況を踏まえた課題(再掲)				
	アート・カルチャー都市事業は整理する。 そのうえで、企業連携プラットフォームやシティプロモーションなど、改めて予算措置する必要がある。				
	②現状の実施状況における所管課の認識				
	事業の中に環境変化に合わなくなったものはあるか。	有	選択の理由	プロモーション全般。区だけでは抱えきれないものが多く、企業の力を必要とするものが出てきているため。	
	直営や委託等の様々な手法を比較検討しているか。	有	選択の理由	企業資源を持ち寄り、区もそこに参画する形で実施できるものを検討中であるため。	
	サービスに係るコストは適正か	適正	選択の理由	決算状況を見て適正に予算措置しているため。	
	統合した方が効率的にできる可能性のある事業はあるか。	有	(有の場合)事業名	文化事業を文化商工部へ移管予定。	
	③上記①、②を踏まえた所管課の対応実施状況				
対応、改善を既に行った	いいえ	はい	取組内容及び効果	予算措置	
対応・改善予定(上記ではいの場合には更なる)	有	無	対応、改善の予定がない理由		
選択肢に関わらず	有	無	対応、改善の内容	SDGs未来都市推進課、シティプロモーション担当課の政策経営部内での扱いとその場合のアトカル部の扱いの検討、文化事業の文化商工部への移管検討	
有	無	有	予算措置を伴わない実施との比較検討	予算措置を伴う理由	
			予定時期	R5 検討開始	

	<b>【区が実施する必要性(c)】</b> S、A、B、Cの4段階で評価 →	<b>C</b>	根拠	「住みたいまち」「選ばれるまち」に向けた取り組みは、シティプロモーションの視点を含むため、区が主導で行う必要がある。アトカル事業は整理したのち、プロモーション関連をシティプロモーション課へと統合していくための新規予算措置が必要である。
※下の確認事項を踏まえ、齟齬がないよう評価及び根拠欄を記載してください。 ※「区他の事業より注力すべき事業」または「区民ニーズが大幅に増加している」の場合のみ「S」評価としてください。				
①区が実施する理由(複数選択可)				
	区他の事業より注力すべき事業である。 ※部の主要課題のうち、特に優先すべき事業の場合チェック			法律の要請を受けて行う事業である。
	民間事業者等に同様のサービスがない。			○ その他(理由) 「住みたいまち」「選ばれるまち」に向けた取り組みはシティプロモーションの視点を含むため、区が主導する必要がある。
②区民ニーズ				
区民ニーズを表す指標	無	有	指標番号(活動)	指標番号(成果)
「有」「無」			推移	推移
ともに記入				サービス利用者数
区民ニーズに対する認識	区だけではなく、公民連携して地域のつながりを深めるなど、戦略的なプロモーションを模索し、区民へフィードバックしていく必要があると認識している。			

<b>総合評価(d=a+b+c)</b>	ランク4
----------------------	------

#### 4. R5年6月末時点の状況

<p>①令和5年度当初の課題・ニーズ</p>	<p>【現状】 アート・カルチャー都市構想実現のために、様々な事業を展開してきた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果の見えにくい事業がある</li> <li>・本来の所管課が実施すべき事業がある</li> </ul>		
<p>②国・都の動き (関係法令の改正・補助金の創設・方針の変更など)</p>	<p>区独自政策のため、なし。</p>		
<p>③令和5年度の方向性・取組方針(事業展開)</p>	<p>①事業の廃止又は所管課への移管 ②組織の整理、見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs未来都市推進課、シティプロモーション担当課の政策経営部内での扱いとそれの場合のアトカル部の扱いの検討</li> <li>・文化事業を文化商工部へ移管</li> </ul>		
<p>④令和5年度の事業進捗状況(6月末時点)</p>	<p>各事業の精査 移管、縮小、廃止事業の検討</p>		
<p>⑤区民等からの事業に対する意見・要望</p>	<p>特になし。</p>		
<p>⑥上記⑤に対する対応</p>			
<p>今後の事業費予算要望(e)</p>	<p>終了/廃止</p>	<p>根拠</p>	<p>シティセールスの視点をもってより戦略的にプロモーションを行うにあたり、シティプロモーション経費として新規に予算措置する必要があるため</p>
<p>今後の事業の方向性(d+e) (現状の評価および施策評価を踏まえた評価)</p>	<p>D:終了</p>		
<p>《上記判断を踏まえた所管課の認識・R5年度以降に向けての対応》</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アート・カルチャー都市事業は整理する。</li> <li>・そのうえで、企業連携プラットフォームやシティプロモーションなど、改めて予算措置する必要がある。</li> </ul>			